

「自分の運氣を上げるコツ」

「社内学校」

平成21年 2月10日

株式会社エモーション

代表取締役 香川 湧慈

日本の哲学は、序論即結論である。つまり、最初に言うことが結論だという事。裁判でも、最初に判決を言い、そして理由を述べる。だから、最初に結論を述べるのである。

運氣を上げるコツは、一言で言うと「自分の中に核を持てるかどうか。」である。核とは、哲学であり、自分はどんな生き方がしたいのかという納得出来るものを哲学と言い、それを自問自答し続けて行く中で、次第に心の芯の部分に「核」が出来て来るのである。

その為、自己成長するという自分の心構えと行動が「核」を作るのに、絶対必要なのである。つまり、自己成長につながるなあと感じた事に、即動くこと。自己成長につながると気づいたら、スグする習慣が実は、自分の運氣を上げて行く。

自分自身振り返ってみると、運が強いと思う。どのような状況になっても、心が腐ったことは無い。また、落ち込み続けたことも無かったし、今もそういう事は無い心で居れる。志高い友人に恵まれ、人間性の良い社員に恵まれ、コツコツと顧客創造が出来る会社運営が出来ている。

長い会社経営に於いて「これは、もうダメやろう！」という状況から、幾度も“奇跡”と言われる事を起こして来れている事実。そして、生まれ変わっても、今の友達、今の社員、今の仕事を迷わず選ぶ。と
言い切れる心境。
これを、運が強いと言わずに、何と言おうか。

この運氣向上のコツは、二つである。

一つは、自分の歴史を振り返ってみて、キーポイントになっていたであろう“出逢い”が誰しもあるはず。その出逢いを生かす努力をする事。その出逢いのキッカケを作ってくれた人の“縁”を大切に思い、行動しているかが、実は、天が観ているのだと思う。最初に縁を作ってくれた人への「感謝の念」と「行動の持続性」が運を向上させるのである。このキーマンであった人を思い出してみる事。そして、思い当たれば、「昨日までは、リハーサル。今日から本番。」の心で、その人に報いれば良いのである。つまり、「素直な心」に戻る事。「素直な心」とは、例え反対意見でも、自分の心を開いて受け止める器量が、己の心に冷静さを呼び起こし、実は己の器を深く、大きくして行くキッカケになるのだと思う。そして運氣が向上して行くのだと思う。

もう一つは、自分にとって「割りに合わないなあ。」と思える事を“自主的”に（ここがポイント！仕方ないからやる。のではダメ）実践する積み重ねが、実は自分の運氣を向上させるのである。自分の運氣を向上させて行く努力をし続けていると、自分を中心に巻き込んでいる人達（主に家族・組織であれば自分の部下）の運氣にも好影響を与えるのである。

故に、会社人に於いて言うならば、自分の特性（長所）を活かして会社の利益に貢献する努力をすることである。

この時、大事なのが、理念の下「心を一つに合わす」こと。皆が会社の目指す理念（何のために経営するのか。ということ）を自覚して、一人ひとりの特性（長所）を誠心誠意発揮することなのである。

「一つを自覚して、一人ひとりの特性を活かす」ここに“充実”が生まれるのである。

この「一つを自覚する」という意味をもう少し掘り下げると、どういうことかと言うと、まず、会社の在るべき姿を理解することから始まるのである。

会社の在るべき姿とは、
社長の経営に対する考えに共感、理解納得して、各々の特性を活かして、
人間として成長する努力をしながら、経済活動をする場所である。

だから、社員としての責任の第一は、社長の考えを理解納得する努力が求められるのである。(当然その前提には、社長の考えが我欲でなく「人の道」が根底に無ければ、意味を成さない。)

それが、廻り巡って自分と自分を中心とする周囲の人達の運氣を向上させるのである。

この事を心底、理解納得出来たなら、それがスイッチになるのである。

つまり、運氣向上のスタートを切れるのである。

今、自分が少しでも心の充実があるのなら、誰が、その縁を作ってくれたのか、を考え、自分なりに、自分の特性(長所)を活かして、その人が喜ぶよう、取り組めば良いのである。

一人ひとりが、自分自身や会社、世間に対する責任と任務があると認識すること。その責任と任務を喜んで引き受けるという姿勢が、結果自分の運氣が向上して行くのである。

逆に、自分の歴史のキーポイントの出逢いを、縁を、作ってくれた人を(悪気なくても)「忘れるような行動」をしていると、バケツに穴を開けて水を汲むようなことになってしまう。という自覚をすべきである。

そして、不安感を持たず、危機感を持つことである。

危機感とは、明確に会社の現状を把握した上で、未来への展望を持ち、自分は今、どうせねばならぬのかを、自覚して手を打つ取り組みをすることを言う。

つまり、調子の良い時にも危機感を持って仕事に熱中していなければ、表面に現れて無いピンチが忍び寄っている。ということを知覚して歩むことである。

不安感とは、現状分析が曖昧である上に、自分の思い込みが強くなる。

当然、未来への展望と対策が伴っていないので、益々不安感が沸き上がって来るものなのである。

だから、調子の良し悪しに関わらず、危機感の意味を理解し、危機感を持って仕事に取り組むことが、自分の運氣を上げて行くのである。